

**平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業
最終評価表**

実施団体	NPO 法人ポケットサポート		
協働部署	岡山市保健所 健康づくり課		
記入日	2018 年 3 月 22 日		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
事業提案書に記載された「期待する事業成果・目標値等」または事業を通じて意識されていた目標を一枠に一項目ずつご記入ください。	「成果・目標値等」に対する結果をご記入ください。	「目標に対する結果」に至った要因や工夫されたこと、うまくいかなかったことなどをご記入ください。
子どもたちへの学習支援の提供:200 名程度/年	学習復学支援を行う「ポケットスペース」を運営し、のべ 187 名の子どもたちへ学習支援を行った。(全利用者のべ 212 人)	平成 29 年度事業ではポケットスペースの拠点を法人事務所に移したことにより、利用人数は目標値に達しなかったが、施設のキャパシティに応じた適切な人数へサービスを提供することができた。活動する施設がかぎられるため利用拡大に向けた学習支援の提供の場について検討する必要がある。
学習・復学支援内容の充実	通常の学習支援の他、年 6 回の特別授業として科学実験や調理実習などを実施し、子どもたちに様々な交流・体験の機会を提供することができた。	ニーズ調査や学習支援を通じて収集した当事者の現状・課題・希望などをプログラムに反映して、満足度の高いプログラムを提供することができた。
院内学級を有しない総合病院への学習支援	平成 29 年 10 月以降2つの総合病院にて、それぞれ週 1 回のペースで学習支援スタッフの派遣を実施した。	病院関係者との丁寧な協議を通じて学習支援を実施するうえでの注意事項などを反映した「マニュアル」を作成した。マニュアルの精査に一定の期間を要したが、結果的に病院側の信頼・理解は深まっており、よりよい環境で学習支援を展開することができた。
病気の子どもの環境理解についての講演会の開催: 参加者 200 名以上。	昨年度に引き続き、昭和大学准教授副島賢和氏の講演会を開催し、市内外から 218 名の参加を得ることができた。当事者、関係者以外にもわかりやすく、共感を得やすい講演内容であったため、多くの参加者に病気の子どもの置かれている環境への理解と活	副島氏はポケットサポートの活動や本事業の主旨を深く理解してくださっており、ねらいに合致した講演となった。団体、担当課のネットワークを生かした広報により、昨年度と同様に教育・医療分野を専攻する学生の参加が多く得られ、今後のボランティアスタッフ

	動への関心を引き出すことができたと思われる。また、参加者のうち、「ポケットサポートを知らなかった」と回答した人が全体の6割を占めており、団体の認知と今後の参加を促進する機会となった。	の拡充につながることを期待できる。一方で教育関係者や支援団体の参加は決して多くなく、広報と関係づくりの両面に課題を残した。
平成30年度以降、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の任意事業の委託を受けられる活動を行う。(岡山市小児慢性特定疾病児童等相談支援センターとの連携を深める。)	小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の実施については現時点では結果は出ていない。 また、岡山市小児慢性特定疾病児童等相談支援センターとの連携についてはセンターの体制変更などもあり、進めることができなかった。	担当課において平成30年度の実施に向けた2年間の協働事業を通じて、事業を受託(委託)するための実績と体制が構築できたものと思われる。特にスタッフ育成やリスク管理の効率化のための各種マニュアルの整備は学習支援事業の安定的な運営だけでなく、関係各所との信頼関係づくりにも寄与するものとなった。

2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体のみに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 協働部署のみに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)
自主性及び自立性尊重	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた

の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)
公開の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた